

# 「自然体験活動指導者養研修会」

## ★事業の概要★

### 事業のねらい

小学校における自然体験活動が円滑に実施されるように、プログラムの計画立案から運営評価まで、活動の全体をコーディネートできる指導者を養成する。

### 期 日

平成24年1月7日（土）～9日（月）

### 会 場

国立大雪青少年交流の家及びその周辺

### 対 象 者

小学校が実施する自然体験活動を支援する意志がある者（18歳以上）

### 参加者数：参加募集人数

22名（参加者内訳 社会人13名、学生9名）：20名

### 講 師

川 嶋 直 氏（NPO法人自然体験活動推進協議会理事）  
 山 本 幹 彦 氏（NPO法人当別エコロジカルコミュニティ代表）  
 前 田 和 司 氏（北海道教育大学岩見沢校 教授）  
 大雪消防組合美瑛消防署  
 国立大雪青少年交流の家職員

### 日 程

	7:15	8:30	10:30	12:00	13:00	18:00	18:30	21:30	
1/7 (金)			受付 開講式	体験活動の 指導法	昼 食	体験活動の 指導法	安全管理	夕 食	体験活動の 指導法
1/8 (土)	つどい 朝食	安全管理	学校教育における 体験活動の意義		昼 食	教育課程と体験 活動の関連性	自然体験活 動の技術	夕 食	プログラムの 企画立案
1/9 (日)	つどい 朝食	自然体験活動の技術			昼 食	プログラムの 企画立案	閉講式		

# ★プログラム紹介★



## 体験活動の指導法①②③

アドベンチャー教育の手法を取り入れた仲間づくりの手法を段階を踏みながら理論と実際を学んだ。



## 安全管理①②

①では、美瑛消防署署員を講師に応急処置、普通救命の技術 AED の使用方法について、②では、リスクマネジメントについて演習を行った。



## 学校教育における体験活動の意義

青少年教育の現状と課題を踏まえ、体験活動が教育にどのような効果があるかについて学んだ。



## 教育課程と体験活動の関連性

教育課程について理解するとともに、体験活動をどのように組み込んでいくかを事例をもとに学んだ。



## 自然体験活動の技術①②

交流の家周辺に出て、冬の屋外でどんな活動ができるか、指導の実際をアクティビティを体験しながら学んだ。



## プログラムの企画立案①②

企画の基礎について学んだ後、実際に行われた長期自然体験のプログラムの検証をグループごとに行った。

## 企画・運営のポイント

- ① 講義内容、時間数は昨年度と同様にしたが、期間を冬季休業中の3日間にする事で、社会人の方にも学生にも参加しやすい日程を組んだ。
- ② 課題意識を高めるため、グループで討議する時間を設定した。

## 事業を終えて(成果と課題)

- ① 冬のフィールドの理解とアクティビティの指導についての技術を身に付けることができた。
- ② モデルプログラムについて検証・検討を行うことにより、効率的に企画立案や改善に必要な視点について身に付けることができた。

## 今後の方向性

- ① 大雪の自然を活用した新たなアクティビティや、再受講者へのフォローアップの体制を整えていく。
- ② 参加者のネットワークが構築できる時間を設定する。
- ③ 日程的にはタイトであるが、参加しやすい日程を設定する。